

私は、本派遣プログラムに参加するにあたって、「宇宙開発における研究を究め、視野を広げ、裾野を広げる。」というテーマを掲げました。そこで、IACでは主に二つの目標を定めました。一つは、研究者、技術者との素養の礎を築くために、宇宙開発の現状を把握し、さらなる発展のために情報や知識を得ること。二つ目は、私たちが日ごろ行っている宇宙開発に関する研究をより幅広い人に我々の活動の意義を理解してもらうためにはどうしたら良いのか、さらには、宇宙開発全般に興味を持ってもらうためにはどのような活動を行うべきなのかの答えを見つけることとしました。

IACやISEBのイベント全てが、私にとって非常に刺激的なものでした。IACでは、宇宙開発を行う世界のリーダーから学生まで様々な人が参加しており、さらに、垣根なくさまざまポジションの人と話す機会があふれていました。まずは、宇宙開発関連を学ぶ学生とは、初日からIce breaking イベントでサッカーなどのスポーツを通してお互いの距離をグンと縮めることができ、その後の期間中でも様々な交流を通して、自分の目指す目標や研究など様々な話をするのできる良い機会でした。そして、ISEBイベントの一つである学生だけのために各機関長とディスカッションに参加するイベントがあり、間近で世界のトップであるNASAやESAやCSAの長官の話聞くことが出来ました。テクニカルセッションでは、自分の研究に関係するセッションを中心に聴講し、宇宙開発の現状、そして、展望に関する情報や知識を得ることができました。

また、普段の学会参加では行うことのできない活動として、JAXA派遣学生で立案した様々なイベントがありました。まず、JAXA学生ブースでは、企画した宇宙折り紙とCansatを中心とした展示を行いました。JAXAブースは様々な展示とポスター展示を行ったおかげで、多くの参加者興味を持って来場していただき、日本の文化や研究について注目を得ることができた。特に自らの研究内容をポスターで発表できたことは、プレゼンテーション能力向上のみならず、今後の研究を考える上で大変貴重な議論となりました。次に、JAXADAYでは、日本学生のオリジナリティーとパワーを見せつける」をテーマに発表を行いました。私は、自ら行っている君が作る宇宙ミッションの教育プログラムについて発表した。発表後、児童向けイベントをドイツの大学の先生と教育プログラムについて議論することができました。彼らは国を超えて参加者を募集しているということで、私たちも更にさまざまな参加者に間口を広げられたと思いました。次に、IAC派遣学生初の試みとなった日本人学校の宇宙授業では、3グループに分かれ、私は低学年を担当しました。授業の内容は、宇宙折り紙を通して宇宙に興味を持つきっかけづくりとなる授業を行いました。授業を行う前までは本当に子どもたちが興味を示してくれるか不安でしたが、その不安は授業を始めてすぐに消え去りました。子供たちのエネルギーに後押しされるかのように授業を行うことが出来ました。授業の最後に水ロケットを全校生徒の前で打ち上げたときの全校生徒の驚きと笑顔が一番印象的に残っています。子供たちに宇宙への興味を持つきっかけとなったらと思っています。ここで、2つ目の目標であった一般の方の宇宙への理解と興味を持ってもらうための活動を行うことができました。さらに、このように学会参加を通して宇宙教育を行い、毎年様々な場所で宇宙開発へのきっかけづくりの新しい手法を示せたと思っています。

以上、IAC派遣を通して、様々なイベントに参加し、様々な人と出会うことができました。その出会い一つ一つが自分の考え方や価値観に影響を与えるものでした。そして、宇宙開発は医学、法学、教育、環境、商業など様々な分野を通して世界中の人が宇宙への志を持って活動していることを直接的に感じる事ができました。まだ、この経験がどのように自分の今後に影響を与えるものであるかわからないですが、まずは、自らの研究分野を究められることがまず、世界で戦う上で一步であることと考えています。そして、宇宙をより使える空間にして、より活発な活動の拠点になるように努力していきたいと思っています。そして、多くの人に興味を持ってもらい、正しい理解をしてもらえるよう活動を行っていきたくと思っています。

IACから帰国し、私は新しいスタート地点に立ったように思います。私はこの経験を糧に精一杯に目標に向かって頑張っていきたいと思っています。最後に、このような貴重な経験を提供していただいたJAXA並びに広浜さん、安藤さん、宮川さん、中村さんをはじめとする宇宙教育センターの皆様には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。